
~蒼天に舞う運命~

炎髪灼眼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「蒼天に舞う運命」

【著者名】

N4766A

【作者名】

炎髪灼眼

【あらすじ】

この物語は高校生杉本裕一が青い髪の女の子に会ってそのこと一緒に空を救うために戦うことになる一人の恋愛も少しずつだけど進んでいき杉本裕一は思う彼女を守りたいと

プロローグ

僕の名前は杉本裕一、現役高校一年生である

そして住んでいる場所は祖父が師範をしている剣道道場である

趣味は空、空を見上げてのんびりすることだ

その日も空を見上げてのんびりしていただけだったのにあんなことになるなんて

～～【出世】

～～【舞う運命】

キーンゴーンカーンゴーン

授業の終わりを告げる音が流れた

『じゃあな～裕一～』

『うん、また明日～』

友達と挨拶を交わし

僕は帰路についた

ミーハミーン

蝉の声

季節は夏、照りつけた太陽の日差しにより頬を流れる汗を拭き道場の扉を開け中に入った

『ただいま』

だか返事はこない

『またかな…』

不安になり中を探す

『やつぱりいない…』

僕は祖父と二人暮らしだ、しかし祖父は剣の授業といい山にこもる
ことが多いためほとんど一人とかわらなかつた。

ガタン

僕は鞄を軽く投げ、空を見上げるため縁側に座つた

『.....』

静かに空を見上げて いると...

『あれ……』

「ロシゴジ

田の錯覚かと思ひ田を擦る

そしてもう一度見上げる

『なんだあれ?』

やはりそこに存在していた

一面の青空に亀裂があつた

ピカッ

亀裂が光つた

『滋しひ…』

田を閉じて閉まつた

『やめやめ～～～』

叫び声？

僕は辺りを見渡したが誰もいない

もしかして

僕は空を見上げた

『（いたー）』

女の子らしき人物が空から降つてきている

『あのままじゃまずい!』

僕は一足飛びで屋根にのり女の子の落ちてくるポイントに移動した

『あやや〜〜〜』

『今だ……』

僕は女の子が目の前に来た瞬間飛び出した

ガシツ

『ふえつ』

僕は女の子をキャッチするとそのまま着地した

『大丈夫かい?』

聞きながら彼女を見て思った、長い青い髪、見た目13歳くらいに
しかみえないし、しかも

『(かわいい‥)』

『うん、あなただれ?』

『僕は杉本裕一って言つんだ、君は?』

『私の名前はないわ』

『えつ、名前がない?』

『うん、私たちはほかと区別するために髪の色で呼ばれているから、

私は
「蒼」

よ

『蒼? じゅあ名前決めてもいい?』

『何であなたが?』

『蒼なんて呼びづらからわ蒼空って書いて

「ソラ」

は?

『勝手にすれば-』

『あのセツソウヘ..』

『これなり呼び捨てなの? なに?』

『君はどういから始めたの?..』

『そんなの決まってこじやないの一・二』

『は?』

僕の運命は宿してでも動き出しだ

～2～【蒼天の刃】

訳がわからなかつた

『はあ？』

『今、天界で反乱がおこつていいの…』

『君は何をしに…えつと…空からきたの？』

僕は気になつていてることを聞いてみた

『なによ？』

『ねえソラ？』

『だから天界で反乱がおこっているの!』

『て、天界?』

『うん、天界!そこで私達の勢力の
「白夜」
と敵の
「漆黒」
が戦っているの』

『はあ…それで君は?』

『私は地上にあるはずのの刀
「蒼天の刃」
を探しにきたの!』

『僕は驚いた、彼女が言つた刀
「蒼天の刃」』

は僕の家にあるからだ

『ねえソラ、その刀だけど……』

話さうとした瞬間だつた

ドーホオホン

『な、なんだー?』

『この販配は……祭壇の……』

『魔のあぬといふからだ……』

タツ

僕は走り出した

『うう、待ちなさいよー。』

タツタツ

『はあはあ……』

僕が蔵の前に着くと

『と、扉が……』

蔵の扉が吹き飛んでいた

僕は急いで蔵の中に入った

田の前には地下に通じる階段があった

『やばい……蒼天の刃が……』

『えつ……』

僕の後ろには追いついてきたソラがいた

『ちよ、ちよっとー今なんて…』

タツタツ

僕はまた走り出した

少し走ると広い部屋にでた、そこには1人の男が立っていた

『この刀を我らのものに…』

部屋の中心には刀が飾られていた

たが今その刀は男によつて奪われようとしている

『待て！刀にさわるな！』

『もう遅い！』

男が刀に触れようとした瞬間

僕の後ろで

『顯現！

「白夜光剣

！』

ソラの声だ

僕が振り返るとそこには白く長い刀を持ったソラが立っていた

『あんた達にそれは渡さないわ！』

『だがもう遅い！』

ガシツ

男は刀をつかみ鞘から抜こうとしたが

『何！抜けないと』

僕は聞いたことがあつた蒼天の刃を扱えるのは世界で只一人だと

ピカツ

そして蒼天の刃は光りだした

ショニック

『き、消えた?』

男は今まで自分の手の中になつたものを探す

ガシツ

『おかえり!』

蒼天の刃は僕の手の中にあつた

『お前はいつたい?』

『裕一って呼んでくれよ、ソラっ。』

『なんで今刀が…』

『簡単だよソラ、この刀の主は僕だからさ』

それを聞いた男は

『そりかなら貴様を殺せば主は変わる訳だな？』

『まあそういう事だね』

『やつかりでよー』

男が手をかざすと田の前に怪物が現れた

怪物は僕とソラをみてうなり声をあげている

『 ゆ、裕一……』

僕を呼んだソラの顔は少し赤い気がした

『 なんだいソラ?』

『あなたは戦えるの？』

『まあ少しばかりは…あの怪物くらいなら余裕かな…』

『なり裕ー！あの怪物をお願いー私はあの男をやるから』

僕は怪物と向き合った

そしてソラの存在を背中に感じながら僕は怪物に向かっていった

手に蒼天の刃を持って

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4766a/>

～蒼天に舞う運命～

2010年11月12日11時21分発行